

## 審査員講評

作者氏名：中丸 銀河

作品タイトル：“WAVE～装飾とユニバーサルデザインの融合～”

論評：

タイトル名の通り、シンプルなデザインと色彩でユニバーサル（すべての人のためデザイン）を忠実に表現している。住宅や公共施設などの日常的に使用される住環境に溶け込むようにマッチすると思われる。

タイル形状には緩やかな曲線を、配色には濃淡のある同系色を使用することで、装飾性の高いデザインになっている。一方、手すりなどの機能を付加したことで実用性も高いといえる。まさに人に優しいタイルであることの総合性が高く評価できる。

作者氏名：畔上 あすか

作品タイトル：“タイルの結晶”

論評：

ひとつの形状を用いて多数の色彩や配色を組合せることで、多種多様な表現をすることはタイルが持つ大きな特徴であり最大の利点である。

この作品は「二等辺三角形」を使用し、複雑な幾何学的模様を再現しているところに、着想のユニーク性がある。

幾何学模様は流動的で存在感があり、様々な表現方法が具現化される可能性がある。無限ともいえる表現方法のキッカケを、一片のタイルで試みたことは高く評価できる。

「総評」

タイルは住空間を彩り、私たち（生活者）に充足感を与える。

優秀賞の2作品は、この基本的前提条件を満たすばかりでなく、住空間をより創造的に表現していることに秀でている。他作品の中にも秀作が多かったが、この2作品がよりアピール度が高いと認識された。

今回が初めての企画「タイルデザイン甲子園」であったが、出品者のタイルに対する理解度が高く、次回もレベルの高い作品応募に期待がもてることの意義は大きい。